

よちよちでできたから子育て広場にあそびにのびのび。よちよちな子どもが安心して遊べる「子育て広場」案内冊子完成



本庁舎前や各振興局の庁舎前など、市内に6カ所ある「子育て広場」を紹介した冊子が完成しました。縦、横とも15cmの正方形で、両面カラーの6ページ。マザーバッグのポケットなどに収まるサイズです。

子育て広場は「ふかふかの芝生があって、よちよち歩きの子どもが安心して遊べて、ママがホッとひと息つけて、そしてまちの人も一緒に憩う場所」。冊子は、子育てセンターなど設置している他、乳幼児健診でも配布しています。子育て広場を通して、まち中に子どもたちのにぎやかな声



▲子育て広場の場所案内のページ

が響くことを願います。

ピアノでありがとつを伝えよう

「バレンタインピアノコンサート」開催

2月11日、市民会館でバレンタインピアノコンサートを開催しました。子どもから大人まで32組が日ごろの練習の成果を披露しました。

このコンサートは今年で3回目。フルコンサートサイズピアノを使用して、大切な人へ感謝の気持ちを込めて演奏するものです。演奏前には気持ちをためたメッセー

ジも披露。参加した子どもは、両親やピアノの先生などに向け「ありがとう」の気持ちを伝えました。大切な人に向けて奏でる音色は、一足早い心温まるバレンタインデーとなりました。



▲ゲストとして出演した山口めろんちゃん



▲広報とよおか11月号

広報とよおか 県コンクールで入賞

第66回兵庫県広報コンクールで、広報とよおか11月号（10月25日発行）が、広報紙部門「市の部」で入選しました。同部門には県内25市から応募があり、入選は上位2番目に当たります。審査講評で「文化芸術の力による地域づくりという、敷居の高いテーマに取り組み、若い世代に問いかけた豊岡市の特集が光った。レイアウトも、フルカラーではないが読みやすい」と評価されました。

また、広報写真部門では「組写真の部」で8月号（7月25日発行）が、「1枚写真の部」で9月号（8月25日発行）がそれぞれ努力賞を受賞しました。本市初の広報紙・広報写真部門の全3部門全てでの入賞となりました。

主な市政の動き

1月

16日・豊岡市農業ビジョン策定検討委員会

17日・ミュージシャン・イン・レジデンス・豊岡「楽曲「アルペジオ」(Pianos)公開

28日・市内事業所の人事担当者向けセミナー

29日・豊岡市新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会

30日・市内事業所の経営者向けセミナー

31日・「豊岡市ワークイノベーション戦略」策定

「豊岡市役所キャリアデザインアクションプラン」策定

2月

8日・シンポジウム「城崎歴史会議」

12日・2018「植村直己冒険賞」受賞者発表

豊岡市都市計画審議会

「高齢化社会におけるダンスの可能性」開催

アーティストの技術を介護現場で活かす取組みとして1月26日、特別養護老人ホーム「たじま荘」で、ダンサーのアオキ裕キさんのナビゲートによるダンスワークショップを開催しました。

初めに、施設職員や一般参加の方が、入所する高齢者と2人1組になり、まばたきや指先の動きなどの小さな動きから「ペアダンス」を創りました。その後、たじま荘の近くで撮影した草木や空、雲、動

物などの身近な自然の風景の映像を見て、木の葉の揺れる様子や雲の動きなどをまねしたり、映像からイメージしたことを手や足を動かして表現。一人一人が「表情豊かな10秒ダンス」を創作しました。全

てのダンスには、音楽家の歌島昌智しまさとしさんが太鼓や琴などで生演奏し、盛り上げました。ワークショップ後の意見交換会では「お年寄りが楽しんでいるのがわかった」「ダンスの大切さに気付いた」など、



▲高齢者対象のダンスワークショップ

「人にやさしい誰もが使いやすい公共施設」市役所本庁舎と豊岡稽古堂が「ひょうご県民ユニバーサル施設」に認定

本庁舎と市立交流センター「豊岡稽古堂」が、「ひょうご県民ユニバーサル施設」の認定を受けました。

兵庫県の福祉のまちづくり条例に基づき、利用者や福祉のまちづくりアドバイザーの助言を適切に反映した施設整備や管理運営の改善を行った施設を県が認定する制度です。県内自治体の庁舎としては初

めての認定です。屋根付きの車いす用駐車場や、設備の整った清潔で広い授乳室やおむつ交換室を設置しているなど、高齢者や障害者、子育て世代の皆さんの安全かつ快適な利用に配慮した施設整備であることが評価されました。

これからも、利用者



▲着色した「ゆずりあい駐車場」

中貝市長の徒然日記 (136)

二八チの法則

佐藤尚之さんが、「ファンベース」という本の中でこんなことを書いておられます。CMやイベントが効かなくなってきた。話題になってもあつという間に忘れられていく。それはそうだ。世の中の情報は、今や世界中の砂浜の砂の数より多い。ザクッと

言って、全顧客の上位20%の人が売り上げの80%を支えている。これが二八チの法則。ファンが新たなファンも作ってくれる。上位20%のファンを大切にすることが、中長期の売り上げを支えるのだ、と

思い当たる節があります。コウノトリ米の最大の消費地は沖縄です。多くの講演を聞かれたサンエーの土地社長がコウノトリの取組みに感動され、販売が始まりました。ほくは2度沖縄を訪れ、各地の店長や売り場の方々に集まっていた

だき、野生復帰の物語を話しました。この米は特別だ、という意識が浸透し、今、沖縄で年間約291トン売っていた

だいています。関西のある高級スーパーには、サンエーのご紹介で入り込むことができました。コウノトリ米を使った泡盛もできました。

ニューヨークへの輸出は、酒造会社・本田商店の故・本田会長のお声かけで始まりました。本田会長には、他の酒造会社へもコウノトリの酒米を推薦していただきました。

「市長、売り込んでもいいですか?」。ドバイへの輸出は、野生復帰に共感した日本人女性の、高級ホテルのシェフへの働きかけで実現しました。今は、アブダビのレストランにアタックしておられます。

2~3	今月のイチオシ
4~5	市政ニュース
6~11	クローズアップ 豊岡
12~17	くらしの情報
18~19	保健行事
20~21	つどいの広場・図書館
22~23	主な相談・主な行事